



柿田川を未来へ
誰もが幸せに
感じられる環境を



柿田川を守り 次世代へつなぐ
暮らしやすい環境のまちしみず

～清水町環境基本計画の概要～



清水町のすごいところは？

知らなかったことも
たくさんあるね！



清水町の環境には、全国にも誇れる特徴がたくさんあります。みなさんも清水町の環境を知り、すごいところを探してみましょ。う。

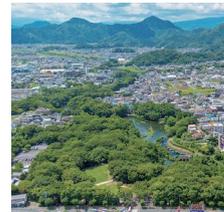
① 日本三大清流

本町を流れる柿田川は、高知県の四万十川、岐阜県の長良川とともに「日本三大清流」とよばれています。



② 国指定天然記念物・柿田川

富士山周辺に降った雨や雪が溶岩の中をとおり、湧き出す柿田川は学術上貴重なものであり、国の天然記念物に指定されています。



③ 日本一の湧水量

柿田川は湧水だけで成り立っている河川であり、その豊富な湧水量は日本一といわれています。



④ 特徴的な柿田川の生態系

柿田川は年間を通じて15℃前後の水温であることから、山地の溪流にみられるアマゴやアサヒナカワトンボなどの動物が生息しています。



アマゴ

⑤ 貴重な生物の分布

柿田川では、ミシマバイカモ、アオハダトンボなどのめずらしい生物が分布しています。



ミシマバイカモ

⑥ 緑米・麴・豆腐などの名産品

本町の豊かな水資源を活用し、緑米などの米、麴、豆腐などの名産品があります。



緑米

⑦ 自然豊かな公園

本町には柿田川公園や本城山公園、丸池公園など緑豊かな公園が整備され、町民の自然とのふれあいの場となっています。



丸池公園

⑧ 少ない1人当たりのごみの量

2022（令和4）年度の1人1日当たりのごみ排出量は725g/人・日であり、国880g/人・日、静岡県840g/人・日よりも少なくなっています。



清掃プラント

⑨ 柿田川に隣接する教材園

清水小学校には、柿田川に隣接する教材園があり、柿田川の素晴らしい自然に直接ふれることができます。



⑩ 民間団体による活発な活動

全国的にも有名な柿田川のナショナルトラスト運動をはじめ、民間団体による積極的な環境保全活動が行われています。



柿田川自然観察会

清水町の環境の課題は？

一つずつ解決
しないとね



清水町の環境にもいろいろな危機が迫っています。みんなで環境について考え、取り組んでいくことで、課題を解決していきましょう。

① 農地の減少と市街地の増加

過去 45 年間に農地は約 8 割減少し、市街地は約 7 割増加しました。市街地が増加することで、地表面温度の上昇にもつながります。



② 水循環の確保

現在、柿田川の水源である富士山周辺への植樹の取組が行われていますが、水資源の確保のため今後も継続していく必要があります。



③ 貴重な生物の減少

柿田川では絶滅危惧種のヤマセミやアオハダトンボなどが近年、確認されなくなっています。



ヤマセミ

④ 外来種の拡大

地域固有の生態系を守るため、柿田川で問題となっているオオカワヂシャやナガエツルノゲイトウなど特定外来生物の防除が必要です。



オオカワヂシャ

⑤ 野生鳥獣による被害の発生

イノシシやハクビシン、ニホンジカなど、野生鳥獣による農作物への被害を防止するための対策が必要です。



イノシシ

⑥ 生活排水処理への対策

現在、生活排水の未処理世帯が全体の約 2 割を占めており、下水道や合併処理浄化槽の普及が必要です。



⑦ プラスチックごみ・食品ロス対策

世界的な課題となっているプラスチックごみや食品ロスを減らすための対策が必要です。



プラスチックごみ

⑧ カーボンニュートラルの実現

2050 年カーボンニュートラルの実現に向け、省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの普及が必要です。



⑨ 柿田川を活用した環境教育

柿田川の自然を保全するとともに、環境教育や自然とのふれあいの場として活用し、町民満足度を高めていくことが期待されます。



柿田川公園

⑩ 環境基本計画の普及・啓発

清水町環境基本条例を 2024 (令和 6) 年 3 月に制定し、今後は条例に基づく清水町環境基本計画を普及・啓発していく必要があります。



環境基本計画とは？

【計画策定の背景】

●人の活動とともに環境問題が発生してきました

1950年代の清水町は集落が点在し、ほぼ全域を田畑が占めていました。柿田川や丸池周辺では豊富な湧水が湧き、狩野川や黄瀬川の水は透きとおりで、川で泳ぐ人の姿もみられました。

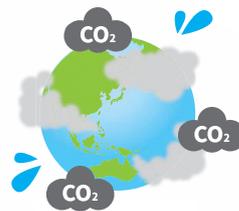
しかし、高度経済成長の時代になると田畑の多くは住宅地に姿を変え、生活排水や工場排水による水質汚濁、自動車の増加による大気汚染や騒音、ごみ問題などが顕在化しました。また、富士山麓の開発や工場による地下水の汲み上げにより、柿田川の湧水量の減少が大きな問題となりました。

これに対して、柿田川周辺の自然環境を保護するため、地域住民が流域の土地を買いあげる運動（ナショナルトラスト）を実施してきました。



●環境問題は地球規模となり、より深刻化しています

近年では、私たちの暮らしが起因となっている温室効果ガス排出量の増大による気候変動、外来種などによる生物多様性への脅威、プラスチックごみによる環境汚染など、環境問題は地球規模となってきました。猛暑や自然災害の頻発など、本町でも既に気候変動による影響が出はじめています。



【計画の概要】

●条例に基づく環境基本計画を策定します

本町では、様々な環境問題を解決するとともに、良好な環境を将来の世代へ残し、持続可能な社会を構築するため、「清水町環境基本条例」を2024（令和6）年3月に制定しました。また、環境の保全及び創造に関する施策を総合的・計画的に推進することを目的として、「清水町環境基本計画」（条例第10条）を策定しました。



●10年間の計画です

本計画の期間は、2025（令和7）年度から2034（令和16）年度までの10年間とします。また、社会情勢や環境の変化を踏まえ、計画期間の5年目に中間見直しを行います。



柿田川などの豊かな環境を将来に残していくための計画です。



【計画の目標】

● 望ましい環境像

本町の望ましい環境像を以下のように設定します。



【計画の進め方】

● 環境審議会を設置します

「清水町環境基本条例」の第20条に基づく環境審議会を設置します。環境審議会は、町長の諮問に応じて審議を行い、その結果を町長へ答申します。また、環境審議会は計画策定後の進捗状況について意見や提言を述べます。



● 庁内の横断的組織で調整を図ります

本計画の取組は、様々な行政分野にわたっており、庁内関係課等が連携しながら推進する必要があります。そのため、庁内の横断的な組織である環境基本計画推進委員会において調整を図りながら、計画の着実な推進を図ります。

[町] [町民] [事業者]



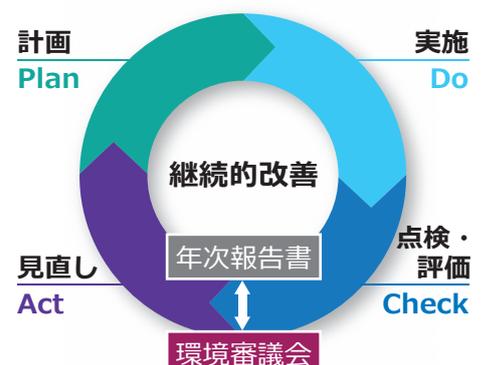
● 町・町民・事業者が一体となって取り組みます

地域として一体となって取り組めるように、町・町民・事業者が情報を共有し、連携・協力しながら推進できる環境づくりを行います。

● 計画策定後はPDCAサイクルによる継続的な改善を行います

本計画の進行管理は、PDCAサイクルに基づいて行います。具体的には、数値目標の達成状況、各課が実施した取組について毎年点検・評価を行うとともに、年次報告書を作成して公表します。

また、環境審議会に毎年進捗状況を報告し、意見や提言をいただきながら、それらを踏まえた見直しを行います。



清水町環境基本計画の取組



基本目標 1

自然と共生するまち

河川や湧水などの水資源を守るとともに、公園・緑地などまちの緑を増やします。また、森林や水田などを保全・活用するとともに、地域の生態系や生物多様性を確保します。

河川・水資源を守る

- ①河川の保全・管理
- ②柿田川・丸池の保全
- ③地下水の保全



河川清掃への参加



富士山への植樹



節水の徹底

まちの自然を増やす・活かす

- ①公園・緑地の整備・活用
- ②公共施設の緑化の推進
- ③民有地の緑化の推進
- ④自然景観やジオサイトの活用



事業所の緑化推進



緑のカーテンづくり

森林・農地・生物を守る

- ①森林の保全・管理
- ②農地の保全・管理
- ③生物の保全・管理



環境保全型農業の推進



外来種の駆除



基本目標 2

安全・安心に暮らせるまち

水質汚濁や大気汚染、騒音・振動、悪臭、有害化学物質など、人や事業活動から発生する公害のない、町民が安心・安全に暮らせる生活環境を維持します。

きれいな水や空気を守る

- ①良好な水質の維持
- ②その他の生活環境の維持



油や生ごみの排水禁止



ペット飼養マナーの啓発

みんなで取り組んで
いくことが重要だね



基本目標 3

資源の循環するまち

ごみの減量、再利用、再資源化の3Rを推進し、環境負荷の少ない資源の循環するまちを目指します。発生するごみは適正処理を行うとともに、環境美化の推進と不法投棄を防止します。

ごみを減らす

- ①ごみの減量・分別・リサイクルの推進
- ②生ごみ・食品ロスの削減
- ③ごみに関する啓発・教育の推進



分別の徹底



食品ロスの削減

ごみを適正に処理する

- ①適正なごみの中間処理・最終処分の推進
- ②環境美化の推進と不法投棄の防止



ごみのポイ捨て禁止



ごみ減量への協力



基本目標 4

脱炭素を目指すまち

再生可能エネルギーの導入促進や省エネルギーの推進を進めるとともに、町民一人ひとりの行動を変え、町全体で脱炭素なまちを目指します。

脱炭素な暮らしに変える

- ①地球温暖化対策の総合的な推進
- ②再生可能エネルギーの普及と省エネルギーの推進
- ③環境負荷の少ない交通手段の普及
- ④自転車の利用促進
- ⑤森林吸収の促進



次世代自動車の購入



ZEH・ZEB*の導入

*快適な室内環境を実現しながら、消費するエネルギーをゼロにすることを目標とした住宅・ビル。



基本目標 5

みんなで環境を守るまち

こどもから大人まで、家庭や地域、学校、職場などで環境教育・環境学習を推進するとともに、環境情報の提供、環境保全活動の活性化を図ります。

環境について学ぶ・取り組む

- ①環境教育の推進
- ②地産地消と食育の推進
- ③環境保全活動の活性化



環境教育の推進



環境イベントへの参加



町民のみなさんに行ったアンケート結果を踏まえて自然共生・脱炭素・循環型社会に向けた取組を一体的に行い、「ウェルビーイング（高い生活の質）」を感じる持続可能な柿田川・柿田川公園を目指します。



清水町の誇りである
柿田川の環境をみんなで
守っていきましょう



① 柿田川の自然環境の保全

柿田川湧水群は豊かな自然環境の保全を目指し、展望施設の維持や環境教育を提供します。国と連携し、特定外来生物の駆除を町民と協力して行います。

③ 柿田川公園の整備・活用

柿田川公園や水辺空間は、都市内の身近な自然環境として保全を図りつつ、人々が親しみやすい環境整備や、観光・レクリエーションの場として活用します。

⑤ ゼロカーボンパーク柿田川の実現

町内の観光資源と鉄道駅を結ぶ周遊コースを設け、EV 充電やレンタサイクルの設置・利用を促進し、再生可能エネルギーの発電街灯や小水力発電の導入を検討します。

② 柿田川の PR と地産地消の推進

柿田川の魅力を町民に PR し、シビックプライドを高めます。「名水百選カード」や「名水サミット」参加で PR を行い、来訪者を増やし、地場産品も PR して環境と経済の両立を目指します。

④ 湧水・ジオサイトのネットワーク化

JR 三島駅から柿田川公園までの湧水拠点をネットワークし、ジオサイトである柿田川湧水群を中心に都市公園の整備とウォーキングコースの活用を通じて自然を楽しめる環境を整備します。

⑥ 柿田川を活用した環境教育の推進

柿田川の自然環境を活かした環境教育の推進、教材園の開放、資料作成など、多角的なアプローチで地域への愛着を育み、独自の価値観を醸成する取り組みを行います。



柿田川の自然環境の保全



再生可能エネルギーの導入



柿田川を活用した環境教育